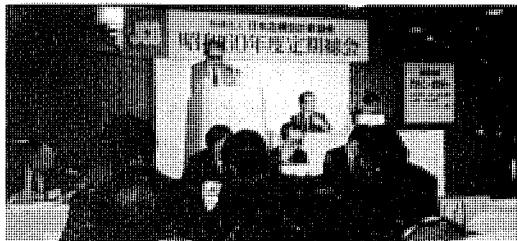


JCD-KANSAI

Japanese Society of Commercial Space Designers

昭和60年 2月
第4号



昭和60年度定期総会

新会名報告会・記念行事 一開催一

昭和も60年、人間でいえば還暦(本卦還り)です。本協会は創立25周年を迎えまさに働き盛りといえましょう。

創立以来私たちの職能は、まさに大きな変化をしてきました。すなわち店舗設計という概念では包括できない業務が、時代の変遷とともに著しく増えています。

本協会でも名称変更が懸案となり、昨年度総会の4号議案に提案され、会員のアンケートによって選出された①商業空間設計家協会②商業環境設計家協会③商環境設計家協会の3案に絞って理事会で検討、英文になることの側面も考えて③という内定のもとに8月に会員への通知、11月に手続の確認報告がなされて決定は60年度の総会でという一大プロジェクトをもって開催されました。

例年ならば渡辺理事長の開会挨拶から始まるところ、入院中ということで、病床から本協会に対する切々たる熱意、強い責任感、確固たる本年の抱負がメッセージとして赤松副理事長より伝えられました。

理事長の真摯な人柄を思う一刻が過ぎて、西脇(頭)会員を議長に下記の案件が審議、衆議一決で可決されました。

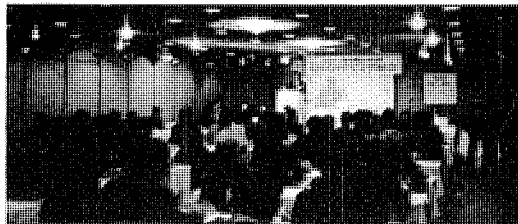
1. S 59年度事業報告の承認に関する件
2. S 59年度一般会計、同特別会計収支決算報告の承認に関する件
3. 協会の名称変更等定款の改正、同役員選任手続規定の一部改正の件
4. 名譽会員の推挙に関する件
5. S 60年度事業計画に関する件
6. S 60年度会費並びに同一一般会計等収支予算に関する件(会費値上げ提案含む)

※名称変更は関係監督官庁の承認の上理事長に一任。

次に記念行事としてアントニーガウディ(1852~1926)の映画が上映されました。

スペインが生んだこの建築家は寺院、学校、住宅、公園、家具等きわめて広範囲に足跡を残しピカノ、ミロ、ダリなど多くの芸術家に影響を与えている膨大な作品が、70分の長時間に渡って履いづくすド迫力にただただ圧巻され続けて感想文などというちっちゃなものをかいてはいけない気持ちになったのは私だけだろうか?

そのあと本協会の関係先を招えての新会名報告会・記念パーティを開催、寒い東京であったがホットなコミュニケーションが随所に見られた。(T.H)



AA SYSTEM

店装構材・照明器材



STORE ELEMENT

ROYAL

東大阪市長田東1丁目56番地 〒577 ●TEL 大阪(06)789-1234
東京都台東区柳橋1-10-9 〒111 ●TEL 東京(03)866-6180

●改名変更について

名誉会員 松田逸郎

姓名判断でみてもらったら今の名前では将来性がよくないので改名しましたという例は時たま出くわす。現に私自身生れた時の名前は松田六郎であった。ペットネーム・ロクさん何故六郎が逸郎に変わったのかという六郎ではロクな人間にならんという親戚筋の提言があって六郎から一ランク上げて五郎(逸郎)一透逸な男ということらしい。しかし私は今でも思っている。六郎の方がソフトで人間的で良かったのに……と、これは私だけのお話。店舗設計家協会が商環境設計家協会に変わった以前の名前の方が良かった…などと言っているのではない。呼称よりもその中身が問題であって名前というのは中身を卒直に表現し得ればよしと思っている。たしかに個々の店舗の設計から複合商業施設へさらに進展して都市の商業環境全般へとわれわれの仕事の領域は拡大されてきている。しかし仕事の対象が単なる個店舗から商環境へと拡大されてゆく、反面でその環境が内包している商業経営の世界はマクロ的には巨大化してもミクロ的にはますます複雑多様化し、細密化してきている。この巨大化と細密化という両極面に対応してわれわれの職能的役割を果たすためには、具体的にどのような仕組みが新発足してゆく商環境設計家協会の中に組立てられなければならないか、たいへんな問題だと思うが、会員諸兄の協力をお願いしたい。

●改名決定と今後のJCD関西支部運営について

副理事長 赤松良一

我々のJCDは、ここ何年かの間、名実とも新しい展開に対して胎動期にありましたが、一昨年度の本部一本化に伴う関西支部の

正式発足、今年度総会における改名議案通過によって、既に皆さんご周知の通り本決まりとなりました。名称の方は新しい社会に通用しやすく生れ変りましたので、今後は実態の方を現会員全体の手づくり作業によって、より理想が持てて、しかもお互が現実的にかかわってエキサイティング出来るパワフルなものに育てて行く段階となった訳です。

改名については、当ジャンルのここ20数年の進化から「店舗ではどうも」と云った会員層の最大公約数的意向から、長らく検討を重ね、今日本で該当する言葉として「商環境」となった次第ですが、事実我々の好むと好まざるに拘わらず、地域・都市商業の実体もそのようになってきていることを考えると「J・C・D(社)日本商環境設計家協会」は少し馴れることによってピッタリ納まるだろうと思えます。要はこれからの社会に対する我々の実力、結束力、アピール力次第でしょう。

そこで今後の会の動き、その中でも当面関西支部では、全国的視野からみると多少変わっていてもある程度個性的な、とも角にぎやかでパワフルな会にして行きたいと願っています。若い人達に魅力を感じて頂ける企画、運営も必要でしょうし、今中堅の会員でいろいろ工夫して頂いておりますが広いジャンルから新進の人々も導入して会員の出席が多くなるような会務運営が先づ必要です。

それにはもっと実際的な事業を——専任の事務局が必要ならばそれも設けよう——時々そんな話題も出ていますが、要は会員各位とのコンセンサスが第一で、関西支部の活性化に対して、皆さんがこの協会をどんどん活用して頂くためには、出来る限りの努力をしてゆく考えです。

先づこの辺が小生の所見であり、打てば響くようなJCDになることを期待致します。

クールテント新縞柄はよりスマートに表現します。

新縞柄

クールテント®



製造発売元

泉株式会社

●私にとってのJCD

DESIGN COMMITTEE DOINC

里吉 明

会員になって、もう16年にもなろうかと思う。協会発足後、来年で25周年となるので、ちょうど私あたりが中間層で、関西支部会員の平均年齢に近いのではなからうか。

私にとってJCDの入会動機は、関西支部からのお勧めもあったが、約4年余りの会社勤めの後、いさなり独立し、現在のNOD主宰の吉尾氏とデザイン事務所を設立した私にとっては、当時華々しくご活躍の諸先輩に感銘を受け、同業諸氏ともふれあうことにより、何かを学ぼうという意欲が入会へのきっかけのように記憶している。協会の活動を私見でみると、会員間親睦、商業施設設計としてのアカデミックな研究、協会員や会の活動に関する広報や、業界関連の情報や、また協会の対外的PR活動等が大きな要素で、最近は何やら業界のポリティカルな活動のロビー化している風にもみえる。2000年を目前に、人間の歴史的過渡期ともいえるアルビン・トフラーのいう第3の波の時代を体験できるのは、幸せともいえるが、私の入会した当時より会員の活動や職能自体も、社会の変動と共に飛躍的に増大拡大し、他分野と大きく関わりあうようになったと思う。JCD関西支部の組織委員として参加している私にとって、新しい時代対応に関し、商業界を基盤に情熱的な行動パワーをもち、その情熱を維持してゆく意志を持っている人と知りあい、交流できるといいと思っている。

組織委員会は、“談話室”なるミニサロンを企画中であるが、会員間や他業種とのコミュニケーションの場としたいと思っている。私も一員として参加し、その時得られる、未知への遭遇に感激したいと期待している。拡大

化してゆくために強く大きくなるもの、逆に失われてゆくもの、うすくなってゆくもの、その矛盾への解決は情熱の維持しかないのではないかと思っている。組織委員長の要氏と共に、組織委員からでも小さな活動に参加することから始めようと思っています。

ぜひミニサロン“談話室”にご参加ください。

●私のJCD観

高田明宏

協会改名を前に、この機会を、一つのフシとして原点に立って思い起こしてみる必要がある様な気がします。

私事で申し訳ないのですが、協会とは、一つ壁向こう的な存在であるような気がする事があります。もっともお互い同じ職業に携わり、ライバルの意識のある中、どうやってコミュニケーションを保てるものか考えさせられます。その原因に数々のコミュニケーションの場において、タテマエ論を語っていたのでは、本物とは言えないであろうし、その様な事自体無駄な気がします。

ホンネとタテマエの世の中で仕方ないのかも知れませんが数知れぬ、協会及団体の中、JCDだけは、この例外でありたい。

同じバッチをつけた者同志、会員の上も下もなく、公平な立場であるべきでしょう。

われわれは協会という場をもって、もっと自由なコミュニケーション（何をやりたいのか、どう思っておるのか等）を保って行こうではないでしょうか。

別に飾り立てた立派な表現でなくとも、どんなささいな事でも自由な立場と自由な発想をホンネとして話し合える場としたいものです。それが私のような原稿を書くことや、自分の表現さえ、生来苦手な者でも参加の足がかりとなる事と思います。またこの事が、この協会



岩崎電気株式會社

本社 / ☎03(452)5351 (大代表)

〒105 東京都港区芝3-12-4

大阪支店 / ☎06(372)8879

〒530 大阪市北区中崎2-4-26

をだれが進行するべきでもなく、自分自身積極的に取り組む事になるだろう。

図面を引く事ばかりではなく人の心の存在を確かめ、日々技術の革新の変化に対応するためにも、他のジャンルの方々とも、意見交換のできるまたとない機会であり、この協会を通じて、明日の羅進盤とすれば、これほどの良いメリットはないと思います。

お互いこの仕事を選んだ哀歓とともに、活発に協会を推し進めて行こうではありませんか。

●私にとってのJCD

吉田秀太

10年間のサラリーマン生活におもいきって終止符を打ち独立して4年目JCDに入会して3年目やっとなんとかデザイン料を請求書通りいただけるようになってきた昨今（たまには値切られるが）精神的、時間的にも少しはよゆうができ、今まで関封もせず机の隅に積み上げていたJCD機関誌等をゆっくり読めるようになってきたし、今でも流動的な社会にアンテナをはりつつJCDセミナー、機関誌、会合等に触発されつつやっていきたいと思えます又触発されるJCDであるように。

床材でハイグレードなイメージを!!

私どもアドヴァンは、ハイグレードな商空間イメージを作る フェレマーブル、アメリカンマーブル、アドマーブル（以上人工大理石）を始め、グラニトス、グレードマーブル、（以上天然石）並びに ヨーロッパ輸入タイル（イタリア、ドイツ他）を、輸入販売致して居ります。

最近では、近代店舗の商空間に、フェレマーブル、アメリカンマーブル等のご指定を多くいただく様になりました。

フェレマーブルは、スペイン産で、用途は店舗、ホテル、マンション、住宅等の床、壁材として、内外装に使用されて居ります。カラーは10色と多く、サイズは400角、600角、400×600の3種あります。

パターンの組合せで気品のある、シックで、格調高いデザインが創造出来ます。

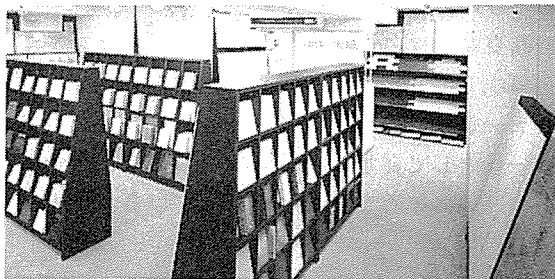
また、最近 新発売致しました、アメリカンマーブルをご紹介致します。

アメリカンマーブルは、プレキャストセラゾーの先端技術により、アメリカで生まれた床、壁材です。天然マーブルチップを特許製法により、ポリエステル樹脂で埋め、磨き上げ、美しくしかも丈夫な製品として完成させたものです。用途は、商業施設を始め、ホテル、マンション、病院、住宅等の内装材として使用されて居ります。カラーは10色あり新しい感覚の素材として、格調高い色調がそのまま、ハイグレードな商空間を創造致します。

特徴(1)大判で610%×915%×4.8%はアメリカンマーブルだけです。(2)仕上りは豪華で本物の大理石チップが、光ります。(3)施工は大変簡単です。(4)乾式施工で仕上りも早く、翌日からご使用できます。(5)Pタイル、リノリウム、ジュタン等の貼り替えに最適です。

以上、簡単にご紹介致しましたが、もう少し詳しい資料、ご説明がご希望の方は、ご報次第、営業担当がお伺い致します。

今後よろしくお願い申し上げます。



ハイグレードな商空間に最適です!

フェレマーブル・アメリカンマーブル・アドマーブル・グラニトス・ヨーロッパタイル等、床壁材発売元



株式会社 アドヴァン 大阪

大阪市南区鯉谷西之町4-9 心斎橋西ビル2F
TEL 06-245-0975(代)・FAX 06-245-0976

想像より創造へ

宮坂



私共「宮坂象嵌」では、日本人に愛され、親しまれてきた「木」をベースにし、伝統の手法と西洋の美意識を融合させ、時代を先取りした、新しい美の創造にチャレンジしています。無限の可能性を秘めた象嵌細工による、空間の演出は、ホテル、パブリックホール、レストラン、銀行、料亭、喫茶店などから、マンションや、高級住宅のプライベートスペースまで、あらゆる用途に応じ幅広く、現代感覚に調和し、心を優しくなごませてくれます。嵌入する素材の中でも、特に螺鈿の美しさは、その光沢・艶、輝きに、強烈な色彩効果をあらわし、正倉院の宝物の中にも、おびただしい数と質を示しています。平安後期以後、和様の文化として、洗練された美的感覚によって醸成されました。技法的には、蒔絵に螺鈿を併用して、その特徴をかもし出しています。漆土芸装触の一部として、貴族・武人・町人と、その時々の文化の主役の脇役として伝わって来ました。私共は、今日の技術で、螺鈿と漆とを切り離す事に成功しました。木の成長記録で、木目造形材料として一番の大きな特徴である年輪の中に、強烈な意匠色彩効果を持つ、螺鈿と木象嵌を巧みに組み合わせはめ込み、格調高い作品を製作致しております。最近作の「風神・雷神の図」は、若

者達が集う、ディスコのホールの正面に飾られても、伝統に培われた意匠と力強さが、新鮮な感覚と驚きで歓迎されました。華々しい雰囲気の中にも、キラリとその存在を示し、私共が抱いていた、一抹の不安などは、ものの見事に消え去っていました。象嵌と言えば金属の象嵌というイメージを持っておられた人々に「木の象嵌」を認識頂き、新しい空間演出の素材の一つとして御使用頂ければ、幸いです。「想像より創造へ」私共の永遠のテーマに向かって日々努力して参ります。



宮坂象嵌
ZOGAN FOR INTERIOR FURNISHING

宮坂家具工芸株式会社

〈本社〉〒616 京都市右京区嵯峨中通町14-4 電話075(872)1631代表

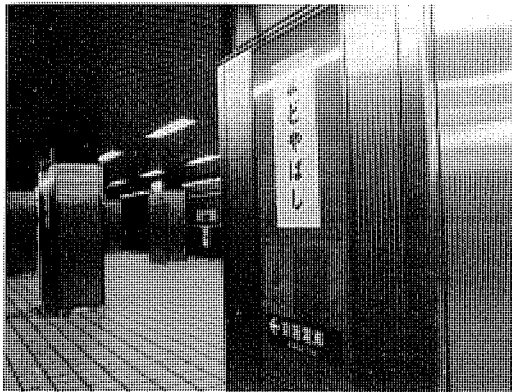
金属に画像と色彩を

メタリックとカラフルとの融合による新しい店舗空間の演出。

金属素材は木質には見られない特有のシャープで美しい質感を持っている。昨今では防災面や耐久性のメリットと共に、その独特の金属質感を意匠面で生かしたモダンな店舗空間が数多く見受けられる。

㈱写真化学〈本社＝京都・☎075-432-1151〉では、写真製版技術をベースに各種金属にパターンエッチングを施したエッチング建築材や、独自の技法によるカラーステンレス建築材（商品名・ホリカラステンレス）を開発、発売している。これら製品の主な特長は、

- 1) クリアカラーインクの画像焼付処理により金属質感を生かしながら暖かみのある壁装の演出が可能。
- 2) オリジナルデザインによる独自の店舗内装が、比較的安価に行なえる。
- 3) ホリカラーには豊富な色調が取揃っておりデザインバリエーションが豊か。又、2次加工性や耐候性にも極めて優れている。
- 4) 壁装材としての取付工法が確立しており、画面作製より施工まで一貫体制がひかれている。（製品のパネル化により、強度やシャ音性に優れていると共に、独自の自立ジョイン



トシステムの開発により下地工事が不要である。工期短縮が可能で改装工事等にも簡単に対応できる。）

㈱写真化学ではこの他上記の応用製品として

- ホリカラステンレスタイル
- メタルサイン（電飾サイン材）

の発売も行っている。

ホリカラステンレスタイルは、前述の各種金属装飾材を11cm角のタイル成型したもので、色、柄の組合せにより変化に富んだ壁面を構成することができる。施工法も従来の陶磁器タイルと同様で扱い易く、役物も豊富に用意されている。

メタルサインは金属肌を表面に持つ新開発の電飾サイ材であり、アルミ及び銅の2タイプが用意されている。高精度のエッチングを加え、好みの文字柄などを背面よりのライティングにより鮮明に浮き上らせる、又、大サイズの製作が可能であり、光元井やディスプレイとしての応用範囲も広い。

光と金属、金属とカラフル。これらの織りなすシャープでモダンな店舗演出は今後も、大きな広がりも見せることだろう。

金属に画像と色彩を
ホリカラステンレスウォール
企画より設計・施工まで一貫体制



株式会社 写真化学

大阪営業所・TEL(06)231-8061(代)
東京営業所・TEL(03)851-1315(代)
建 材 部

再開発事業でのコーディネーターワークへの所見

松井理夫

昭和も今年で60年目、人間の歳で言えば還暦を迎える節目の年であり、私の業務歴も銀婚式を少し過ぎる歳になってしまった。

日常生活のなかでも記念すべきこのような節目、節目があって、それぞれ、そのときの節目で気分を新たに毎日暮らしている。再開発事業でも、「A調査」「B調査」「都市計画決定」「事業計画決定」「権利変換」「工事着工」……と云った節目を一つ一つ消化して行って事業が完了するのである。

私の行っているコーディネーター業務は、既存の営業権利者をうまく調整（説得）して新しい床（場所）に置き換えるということにある。この場合、どのようにするか、一言でいえば事業計画の内容を関係権利者全員に説明し理解させることになる。

権利者の奥さん、子供さん、おじいさん、おばあさんまで含めてである。そして、何度も何度も説明会（総会、業態部会、フロア別）を開いて、説明するときは難しい言葉を使わず、誰れにでもわかるように説明しなければならない。

勿論、全体説明会だけでなく、権利者の家庭を訪問して個別に話し合うことも必要である。時によっては、「あなたの業種であれば場所はこのあたりですよ」とはっきりと配置図を示し、又「こんなイメージの商業施設」「こんなイメージの売場」と云った概要をスライドによって、完成後の雰囲気権利者にわかる様にしなければならない。

事業の節目によっては、まだ基本的な事柄しか出来てなくても、コーディネーター自身で仮設の配置計画を作成し、それぞれの店舗

イメージを頭に描いて説明する必要がある。そのためには、事業内容の理解、地域の性格、商業施設の性格づけ、営業権利者の能力、営業内容、家族構成、そして、権利者同士の付き合い関係、等々を事前に調査し把握しておかなければならない。

紙面の関係で事業完了までの節目ごとの手法について書くことができないが、一般的に権利者が問題にすることは、従前の評価額、従後の床価格、権利変換の位置等々であり計画段階で長期間に渡って調整を要する事項である。

また、個人ではこれからの新しい商業ビルでの営業に対して不安をもつ権利者、営業する気持があっても資金調達に必要な権利者などと、一方では、これまで共同ビルでの営業経験のない営業権利者に、共益費、販促費等の諸経費が必要なことを理解してもらう為に、個別の経営指標、基本レイアウト等を作成して権利者が抱いている不安を一つ一つ取り除く作業も大切である。

そして、この商業施設が、将来権利者全員がどうやれば希望がもてるかを説明するしかないが、説明しても分からない人は、全体の力でひっばっていきより仕方がない。

以上、これらの仕事は、都市計画家、建築家、評価鑑定士などの専門家と一緒にあって複雑で大規模なプロジェクトの仕事をしているが、私の立脚点は、こと商業に関して話し合うにしても共通の言葉が存在しないことから、関係者、権利者にコンセンサスを得る通訳をつとめることで事業の進展がスムーズに運ぶよう日夜努力しています。

NIPPO スリムラインランプ、エースラインランプ、超高出力殺菌ランプ！

光を創って40年！！

ニッポ株式会社

東京・名古屋・仙台
大阪・福岡・平塚



●私のホビー「やきもの」

大菅 満義

私の趣味といえば、絵を画いたり彫刻を作ったり色々やっておりますが、どちらかといえば仕事の延長みたいなものばかりであまり面白くありません。少し離れたものと思い10年ほど前から「やきもの」をやっております。

きっかけは学生時代に彫刻をやっておりました関係で、彫塑人形を作っては展覧会に出品したりしておりましたが、しばらくやめておりましたが10数年前から又作り出しました

それは土人形（伏見人形）様なもので、土で素焼して彩色したもので、それを焼くために自宅に石油の陶芸窯を設けたのが初まりで、もっと本格的なものと思い「やきもの」を初めました。現在は主に茶碗を中心に、香炉、香合、水差し、食籠等茶陶を、大阪で唯一の窯である吉向窯に通って作っております。

吉向窯は一昨年JCDの月例会で一度会員の

皆様を御案内した所です。二百年ぐらい前に大阪十三で初められた窯で、初代が將軍家の慶事に、鶴と亀の食籠を献上したところ、その亀の食籠が大へん気に入られ、亀甲即ち吉に向うに因み「吉向」の窯号を賜り、以来吉向姓を名乗っておられ、各地の大名の御家焼としてもてはやされました。現在は、十三、高津枚方を経て、交野私市月の輪の瀧の近くに工房があり、当主は七世吉向松月（蕃齋）先生です。「やきものはお茶碗に始まり、お茶碗に終る」といわれておりますが、お茶碗が一番むつかしく、初めの内は簡単に思っておりますがやっている内にだんだんむつかしさが解って来るもので、10年近くやっていて初めて解りかけたというところではあります。

私なりに「やきもの」の魅力は何かと考へますと、はっきり具体的に答えが出てこない、そこが魅力かと思えます。土で形を造り、素焼して、うわ楽、本焼等いくつかの工程をくぐって出来上るものですが、全工程すべて計算通りに思うように出来ない、多分に偶然性が加わって出来上るもので、経験を重ねることにより良い偶然性を作り出すことの妙味みたいなものが「やきもの」の魅力ではないかと思っております。だから作家など何十個焼いて出来たのは一個だけなど聴かれたことがあると思えます。いずれにしても土を相手に無心に、小学生のねんど細工のように他のことを忘れて没頭出来る楽しさがあります。

最近はそのお茶碗をどう使うかに興味を持ち、茶道の稽古をしております。お茶を通して数寄の心を学び、建築の仕事にもプラスされるのではと思い頑張っております。大へん参考になることもあれば、何かばかばかしい形式化された点もあつたりしますが、とにかく楽しんでやっております。その内に良いお茶碗が作れることを期待しながら。

TOSHIBA
—あかぬけの持たせのびりつ—

'84ジャパンショップ 通産大臣賞受賞!!

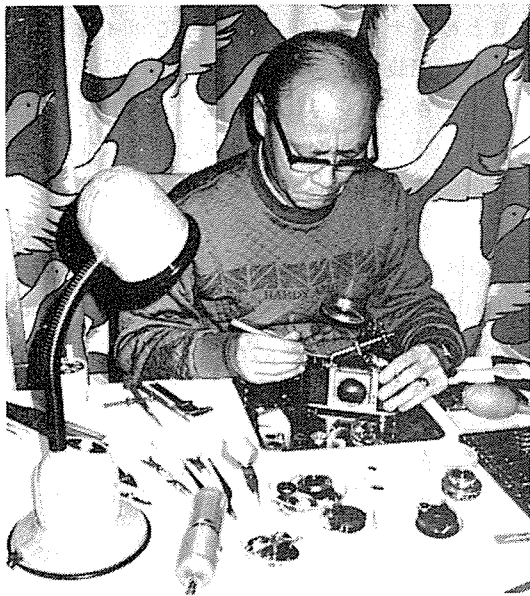
東芝ダイクロイック・キャドクール

★お問合せは…東芝電材(株)近畿支店 商業施設担当 〒541 大阪市東区本町4-29 ☎06(244)2852

●オリジナル手造りカメラの楽しみ

林 利洋

小学生の頃、兄貴のジャバラカメラをいじくり廻していましたが、どうも思う様にスッキリ与って呉れないので、ああでもない、こうでもない、こちらの腕の悪いのを棚に上げ、悪いのは機械の方にしてから今日まで、単身の頃は収入の大半をカメラ購入にして、よくもまあ自分でもあされる程に今まで約200台ばかりのカメラを手にして来ましたが、現在の様にピントもフィルムの巻上げも露出も全てオートと云う様なチンパンジーやゴリラが使ってもキレイな写真が撮れるカメラが多くなると、写真を撮る事の意味が全く変わってしまった様です。反動として機械全てを使う人間の意志で写真が撮りたいと思う人達も結構いる現れとして各地には数10年前のクラシックカメラしか使用しないフォートグループも沢山生れております。しかしこれらのクラシックカメラの中には現在の最新型より、はるかに高価なものが多いのですが、私の方はこんなダンナの道楽とは同じ様にとてもフトコロ



が続かないので、古道具屋の片隅やカメラで埃をかぶっていたり、又通常では修理不能なポンコツを集めて来ては分解して、オリジナル手造りカメラの製作に熱中しております。幸い友人にカメラ店主が居るので、材料は何かなるのですが、色々の機種を分解するには、それに合った特殊な工具が必要で、先ずこの工具造りから全て、ハンドメイドなので大変手数が掛ります。始めの内は同機種のポンコツ数台集めて良い部品を使って使用可能にしておりましたが、これではものたりなくなり、自分の目的に合った写真が撮れる面白いカメラの製作を行っております。ボディにする材料が準備出来ればそれにピッタリのレンズがなかなか見つからなかったりと云う様な事で、一台を完成させるのに一苦労ですが、日用品の中には結構この資材となるものがあります。これらにピッタリの資材が見つかった時は自分でも馬鹿々しい程に嬉しいものです。高校生の息子などはバカチヨンと云う文明の利器があるのに、オヤジのやっている事は理解出来ないらしいのですが、目的に合わせて自分の能力を傾けて、一つの物を創り上げると云う原因と結果は、人間性の回復やないかと自画自賛しております。私の様にカメラに限らず最近手造りと云う事が盛んになって来たのも人間味あるゆとりを取り戻そうと云う意味の現れでしょう。カメラの場合はメカニク部分が大半ですが、手造りする事によって一つ一つの単品としてのユニークな面白さは量産された市販の現在のプラスチックの箱にはない性能や味が出せるし、自分が造ったカメラで写真を撮ると云う事は格別の喜びがあるものです。使用していて少し調子が悪くなっても、ああ、一寸ラフに仕上げたあそこだろうと云う様に一目瞭然。店造りにも共通点があると思います。

照明器具の専門メーカー
マックス電機

- 本社 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536
TEL(06)967-0140(代) FAX(06)967-0837
- 大阪特販営業所 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536
TEL(06)967-0123(代) FAX(06)967-0837
- 市販営業所 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536
TEL(06)961-8888(代) FAX(06)962-5988
- 京都営業所 京都市中京区釜座通御池下ル津鞆町770-2 〒604
TEL(075)255-5663(代) FAX(075)255-5665

見て・触れて・実感できる——

●神戸シャープOAショールーム

日本生命三宮駅前ビル1F

企画・総合管理 シャープ(株) 杉田 保
設計・施工 (株)乃村工芸社

本格的なOA時代に向け、OA、PA機器の拡売を目指し、神戸三宮でのショールーム開設は、シャープ企業イメージのアップを計るとともに、実際に見て、触れ、使わせる、フレキシブルなレイアウトで、PA機器からOAシステム展開、目的別の最新機種を個別展示まで、すべてが使いやすい最優先の設計で好評をえています。



●洋菓子「エンジェ」

企画・設計・施工

シマダデザイン工房

嶋田守一

国鉄大和高田駅を降り左へ行くと銘菓「エンジェ」があり間口の広いシンプルな外装が目に入る。駅前再開発事業又改装後10年も過ぎ今回の改装に踏切った。この10年の間は特に洋菓子業界の業態も急激な変化があった。チェーン店。自家製造の小規模店。同業。他業種参入に依る洋菓子喫茶店(デザート喫茶)。又自家製造在来店に依る大型化等、競争激しい状況です。洋菓子店も「他店との格差、個性化」をはっきりと顧客にアピールし自店の地域における位置をはっきりと示すべきです。例えば商品の個性化(オリジナル)内装の独自性です。今回の改装での基本ポリシーはまず地域での店格(一番店)。洋菓子のもつイメージの明確化(清潔。ファッション性。あたたかさ)。ケーキを購入する時の楽しさ。(夢を与える)。この3点を特に留意し設計にたずさわった。外装はまず店格と清潔さを表わす為シンプルな直線と色彩は淡いライトグリーンを中心にまとめステンレスキによってポイントを作った。内装は洋菓子のもつイメージと買う時の楽しさ、夢を与える様広くゆったりとしたスペース、平面的には単純にて明解な動線とし、全体に明るいアイボリー色を用いポイントにライトグリーンの濃淡でしめ、奥正面はタンポアの斜め張りとし色はチーク色をぬり。広い店内をしめくくった。全体としては余り装飾をつけず、絵画、植木、置物によってあたたかみを出し。来店客がいつ来ても、いつも変化があり楽しい一時をすごせる様オーナーに御願ひしています。

改装後半年をすぎ現在の状況は売上も御客様の反応も充分すぎる程の結果がえられオーナーも私自身も満足感であふれている。以上

デザインコンセプトが生きる、新感覚派「椅子」「テーブル」新登場。

新アボールカタログ完成。お電話いただき次第ご説明に上がります。

(株)キノシタ 大阪市南区難波千日前8-8 ☎(06)644-5541

aboard



● ラーメンハウス 熊五郎

大阪市北区曽根崎

設計 ㈱アズ 山崎博司

施工 ㈱アズ

神戸、大阪を中心に15店舗程のチェーン店をもつ、ラーメンの専門店の新店である。ワンフロア20坪の3層で、1階をラーメン、2、3階を喫茶のフロアとしている。

曽根崎という、どちらかというと薄汚れた感じの雑然とした街並みの中で、ラーメンという非常にポピュラーで、安価な食べ物を、主な客層であるサラリーマンのインテリジェンスに訴える意味からも、石を使った白と黒の若干きびしさのある、リッチな空間で提供するという対比の面白味が設計のポイントである。ラーメンという日常的な食べ物こそ、よりきっちりとした空間で食べさせたいというのが設計者の願望でもある。



あかりの専門メーカー

照明社[®]

本社 / 大阪市天王寺区勝山4-8-13 〒543 TEL (06) 779-7777(代)
東京 / 東京都千代田区神田須田町2-23 〒101 TEL (03) 255-7777(代)

●ブティック マルナカ (姫路市)

設計 Doi デザインオフィス
土井 貴史

施工 榑布谷 長門 弘二

「なめらかな曲面構成による、ゆったりとした空間の為の、おだやかな環境」をテーマとしたお店を創りたかったのですが、具体化するにあたって、あいにく「ウナギの寝床」の条件のブティックしか身近になく、多少なりともガンバッテみた結果は、残念ながらテーマとは遠くへだたったものとなりました。

とは言うものの、ただ一つの救いは、オーナーに満足していただいたという事ですが、しかしこれも単に、従前の店舗がいかにかひどかったかという明かしかもしれません。

ちなみに、基調色はベージュ、素材はテラゾーブロック、タイルカーペット、タモ材、ビニールクロスと至って平凡な構成です。



支部 各委員会日より

■組織委員会

11月22日 JCDルーム

- ◎忘年会企画及実施の推進
- ◎会員拡充、組織強化の検討

60年1月18日 JCDルーム

- ◎本年度月例会スケジュール計画及決定
- ◎委員会出欠連絡について確認
- ◎会員拡充意見交換

■情報委員会

12月24日 JCDルーム

- ◎60年度事業計画

JCD-KANSAI 継続発行の実務企画検討 本年度は2・5・8・11・61年2月に増頁で発行し夫々の担当委員を決定

- ◎情報誌第4号の担当は 原田、林、植村会員に亀井会員が特に加入される。

60年1月7日 榑白水社

1月14日 マツダ店舗設計研究所

2月2日 榑布谷

2月4日 マツダ店舗設計研究所に

てそれぞれ第4号編集会議を開催。

●編集後記

総会報告と総会の主題である改名に関する会員のコメント等も加え新しい協会についての特別号です。又、イメージのページは手工芸的な素材を取り上げて見ました。ホビーでは平素の会員のあまり知られていない趣味を見せてもらいました。皆様もどんどん御投稿下さい。今後益々内容を充実して行きたいと思っておりますので会員の皆様も御協力下さいますようお願い申し上げます。(H)

光と影のコミュニケーション



七カ'照明器具

小泉産業株式会社

本社 照明事業部 〒541大阪市東区備後町3丁目長谷ビル3F TEL 06-262-0861